

## 2019年度 次世代医療構想センター活動総括

我が国の急激な人口減少による少子高齢化社会により 2025 年に医療と介護需要がピークを迎え地方と都市部の人口構成がこれまで以上に変わっていくことが明らかとなっています。また、2024 年に医師の働き方改革法案が施行され、医師の残業時間の上限規制が法律として定められることから、医師の絶対的不足や地域偏在により 24 時間体制の医療提供の維持がますます難しくなることが予想されています。しかしながら国家財政を保つために医療費の伸びを抑えることや医師や看護職員の人材育成は一朝一夕では解決しないため、限られた資源を上手に活用する医療提供体制を作らなければなりません。

さらに 2019 年の台風災害や 2020 年の新型コロナウイルス感染症の影響により、わたしたちの社会は急速に、そして劇的に変わっている真っ只中にいます。とりわけ医療提供体制の在り方についての議論を急激に加速化させました。住民の健康を守り、本当に必要な人々に必要な治療を届けるためには、限られた医療資源の「選択と集中」に本格的に取り組まなければならない重大な局面を迎えています。

私たちは千葉大学医学部附属病院の寄附研究部門として、これまで国や都道府県が議論を重ねてきた人口減少社会に向けた医療提供体制の在り方や働き方改革へ対応するとともに、新型コロナウイルス感染症等の新興感染症に対応するための医療提供体制を千葉県においてどのように整えるべきかという、千葉県そして日本全国の次の世代に向けた、前例がなく、これまでの枠組みではとらえられない重大な課題に挑んで参ります。

さとう だいすけ  
佐藤 大介  
次世代医療構想センター  
副センター長・特任准教授



## 2019年度 次世代医療構想センター 活動報告

～千葉医療の現状を知る～

補足資料

